

# 地域づくり人材育成セミナー 実施レポート

毎年開催している当セミナー、今年度は二つのテーマでそれぞれ県内 2 会場において実施いたしました。このセミナーは、生涯学習・社会教育関係職員、地域づくりリーダーとしての活躍が期待される県民対象に開催されるもので、効果的な生涯学習講座運営や企画について様々な講師や事例提供者をお招きして学ぶものです。

## 《防災・減災》

- 【置賜会場】日時：令和4年9月1日（木）13:00～16:10  
場所：シェルターなんようホール（南陽市三間通 430-2）  
【最上会場】日時：令和4年9月3日（土）13:00～16:10  
場所：新庄市民プラザ（新庄市大手町 1-60）

## 《デジタル・ディバイド防止》

- 【庄内会場】日時：令和4年9月9日（金）13:00～16:00  
場所：酒田市公益ホール  
（酒田市飯森山三丁目 5-1 学校法人東北公益文科大学内）  
【村山会場】日時：令和4年9月17日（土）13:00～16:00  
場所：遊学館（山形市緑町 1-2-36）

## 対象者

- ・生涯学習・社会教育関係職員(公民館・コミセン職員、生涯学習・社会教育施設職員含む)
- ・地域づくりリーダーとしての活躍が期待される県民  
(NPO やボランティア団体で活動されている方、青年会議所職員や地域福祉関係者、学生等で地域づくりに関わっている方など)

# 《防災・減災》

9/1（置賜会場：シェルターなんようホール）9/3（最上会場：新庄市民プラザ）実施

時間	◇受付 12:30～12:55      ◇事務連絡 12:55～13:00
13:00～14:00 オンライン講義	◆事例提供 防災をテーマに地域のつながりづくり～地域×企業のコラボで作る防災講座」 中岡博美氏（広島県呉市まちづくりサポーター） 上 仁和氏（広島県呉市宮原まちづくりセンター 館長）
14:00～14:10	休憩
14:10～16:00） （途中休憩あり）	◆講義&ワークショップ 「防災・減災講座やイベントの企画と運営のポイント」 講師：千川原 公彦氏（ウェザーハート災害福祉事務所 代表）
16:00～16:10	諸連絡・アンケート記入

## 参加人数

申込者数：25名（置賜：18名、最上：7名）

出席者数：24名（置賜：18名、最上：6名）

## 講座の様子



## 事例提供

地域一丸となって防災に取り組んでいる広島県呉市宮原地区の公民館館長である上氏、ならびに地区公民館や小中学校との協働を長年継続しているまちづくりサポーターの中岡氏からは歴史のある取り組みを簡潔にお話いただきました。防災に取り組むということは、まちづくりでもあること、このような視点を新たに得られた講話でした。

### ○参加者の感想

- ・呉市ではまちづくり推進委員会の活動が活発という印象を受けました。防災の観点だけでなく、地域組織の活性化などの観点でもお話を聞きたいと思いました。
- ・実際に防災について熱心に取り組んでいる事例を聴くことができ、参考になった。地域の中学生がボランティアをしている例などは、地域の自助の力を感じ素敵だと感じた。
- ・自主防災の機能が不十分だという声が自分の地区でもあがっていたので非常に参考になった。
- ・防災に関してもっと学習する必要があると痛感。自分たちももっと考えてつながりを持つように努力したい。

## 講義 & ワークショップ

千川原氏は、まだ8月の水害による復興ボランティアとして被害甚大であった飯豊町等で活動しておられたこともあり、現状の確認もしていただきました。災害はまだ続いている—このような意識のもとに、防災講座の種類の紹介や企画時のアドバイスなど基本をお話いただきました。今年度の研修の主眼は、ワークショップでのゲーム体験。非常に活気あふれる時間となりました。ゲームを通して、災害時にどういった対応が求められるのか、一市民として、また避難所運営に関わる立場として、他者の答えや考えを聴くこと、知ることの大切さを学びました。

### ○参加者の感想

- ・判断すること、いろいろな考えがある。こんな時どうするなど共有できることもあると実感。
- ・8月3日の災害で、地域住民からぜひカードゲームで考える防災講座をやりたいという声をもらっていた。とても勉強になりました。
- ・難しい問いにもゲーム性がもたれていたこと、話し合いを主体とするので、コミュニケーションを深めることにもつながるので良いゲームでした。

# 《デジタル・デバイド防止》

9/9（庄内会場：酒田市公益ホール） 9/17（村山会場：遊学館） 実施

時間 ◇受付 12:30～12:55 ◇事務連絡 12:55～13:00

13:00～13:50 オンライン講義	◆事例提供 「船橋市における学びの観点からのデジタルデバイド対策について コロナを見据えた社会教育～学びの解消格差に向けた取組～」 鈴木 大悟氏・溝口 大蔵氏（船橋市教育委員会 中央公民館） 竹田 博一氏（船橋市教育委員会 社会教育課）
13:50～14:00	休憩
14:00～15:50 （途中休憩あり）	◆講義＆ワークショップ 「デジタル・デバイド解消に向けた講座の企画運営について」 講師：開沼 敬子氏（パソコン講師）
15:50～16:00	諸連絡・アンケート記入

## 参加人数

申込者数：16名（庄内：11名、村山：5名）  
出席者数：15名（庄内：10名、村山：5名）

## 講座の様子



## 事例提供

船橋市におけるデジタル・デバイド対策活動の注目すべき点は、教育委員会と公民館および他部署との密接な協力体制にあり、そのプロセスを解説いただきました。また、数多くのスマホ講座を実施してきた中で得た知見によるアドバイスや情報は説得力があり、非常に得るところの大きい講話でした。

### ○参加者の感想

- ・スマホコンシェルジュで対応すること、しないこと、人数配置、デジタルデバイド講座においてはレジュメはあえて用意しない等、具体的な取り組みについてのお話が聴け、大変ありがたかったです。成功事例を自身のチームに持ち帰り、今後の事業に役立てます。
- ・他の地域の事例を知ることができてよかった。規模が大きい分できることが大きく、計画もあり、運用しやすいと思う。逆に自分たちは地域の公民館であるので、何か可能になり、何が難しいか考えたい。
- ・すでに取り組んでおられるため実践に基づいたデータや経験による知見など、明瞭な回答が聞けた。今後取り組みを検討する際、今回のプロセスをぜひ参考にさせていただきたい。

## 講義＆ワークショップ

講師の開沼氏からは、具体的な情報や指針が多く含まれた講義および資料を提供いただきました。スライドの合間に、少しずつお話いただいた経験談も、一口に「スマホ講座」とはいても、実施するには数々のハードルがあることを実感するものでした。グループワークでは、困っていること、解決したいこと、現状の問題点などをグループごとに洗い出し話し合いました。

### ○参加者の感想

- ・講座開設のキモ、要点がわかりやすいと感じた。
- ・私のチームでは、（スマホを）持っている人、持っていない人を一緒にしようとしていました。開沼先生の実体験から、基本的な操作一つ教えるのも大変ということを知り、対象や研修の内容を考え直さなければならないと思いました。
- ・地方のデバイドを感じました。まずは少人数講座をやりたい。
- ・山形における講習会の現状をはっきり聞いて、驚くと同時に気楽に考えていた点を反省しました。